

Bilder einer Ausstellung

Symphonic Cantata

for 2 Pianos 8 hands, Saxophone Quartet, Chorus and Band

Modest Petroitsch Mussorgski Arranged by ITO Yasuhide
Words by Schiller, Göthe, Müller, Caesar, Propertius, Salstius, Vergilius,
Du-fu, Li-bai and ITO

展覧会の絵

二台八手ピアノ、サクソフオーン四重奏、混声合唱と吹奏楽のための
交響的カンタータ

M.P.ムソルグスキー作曲 伊藤康英編曲・構成
シラー、ゲーテ、ミュラー、カエサル、プロペルティウス、サルスティウス、ウェルギリウス、
杜甫、李白、伊藤の詞による

地球はひとつなのですが、
世界はひとつではないのです。
世界をひとつにしようとして、
あまたのいくさがありました。

世界はひとつではないのです。
それをみんながわかったときに、
世界はひとつになるのです。
たったひとつの地球のうえで。

INSTRUMENTATION

2 Flutes
1 Piccolo
2 Oboes
1 English Horn
2 Bassoons

1 Eb Clarinet
Bb Clarinets (3 parts)
1 Eb Alto Clarinet
1 Bb Bass Clarinet
1 Bb Contrabass Clarinet

2 Eb Alto Saxophones
1 Bb Tenor Saxophone
1 Eb Baritone Saxophone

4 F Horns
3 Bb Trumpets (1st also Flugelhorn)
3 Trombones
Euphoniums
Tubas
Contrabasses

Timpani
5 percussionists

Mixed Chorus

(Saxophone Quartet)
Bb Soprano (also Eb Alto)
Eb Alto
Bb Tenor
Eb Baritone

2 Pianos 8 hands

Promenade 1

世界はひとつではないのです。

Chorus+Band

Chikyuu wa hitotsu. Hitotsu no Chikyuu.

Dakara sekai mo hitotsu ni.

Chikyuu wa tatta hitotsu.

Sekai mo hitotsu de are.

地球はひとつ ひとつの地球

だから世界もひとつに

地球はたったひとつ

世界もひとつであれ。

Unsre Erde - Unsre Welt

terra nostra – mundus noster

(伊藤康英)

Ausgesöhnt die ganze Welt!

全世界は和解しよう。

(シラー『歓喜に寄す』より、伊藤康英訳)

※演奏にあたっては、視覚的効果のために、冒頭のトランペット、第5小節のトロンボーン、第7小節のホルンの立奏が考えられる。

1.Gnomus(こびと)

いにしへのローマのいくさびとは、こう言った。

Chorus+Pf+Band

iacta alea est.

賽は投げられた。

(カエサルのことば。プルタルコス『ポンペイウス伝』60 より)

libenter homines id quod volunt credunt.

人間は自分が信じたいことを喜んで信じるものだ。

(カエサル『ガリア戦記』第三卷 18。カエサルは、人間のこの傾向を利用して戦いに勝利を得たと伝えられる。)

veni, vidi, vici.

我来たり、見たり、勝ちたり。

(カエサルのことば)

※ラテン語の歌唱に際しては、できればラテン語の発音をしていただきたい。「V」は「U」となるので、「veni」は「ウェーニー」となる。また「ci」は「キ」となるので、「vici」は「ウィーキー」。

Promenade 2

いにしへの唐の詩人は、こう歌った。

Chorus+Sax+Band

国破山河在、

guó pò shā o hé zài

城春草木深。

chéng chū n cǎo mù shē n

感時花濺淚、

gǎn shí huā jiàn lèi

恨別鳥驚心。
hèn bié niǎo jī ng xī n
烽火連三月、
fē ng huǒ lián sā n yuè
家書抵萬金。
jiā shū dǐ wàn jī n
白頭搔更短、
bái tóu sā o gèng duǎn
渾欲不勝簪。
hún yù bú shèng zā n

(国破れて山河在り、城春にして草木深し。時に感じては花にも涙を濺ぎ、別れを恨んでは鳥にも心を驚かす。烽火三月に連なり、家書万金に抵る。白頭を搔けば更に短く、渾で簪に勝えざらんと欲す。)

国がほろび、残るは山や川ばかり。
草木が深く生い茂る、城は春まっさかり。
花にも涙をさめざめ流す。時のうつろいを感じつつ。
鳥の声に心はざわめく。家族と離れた恨めしさ。
いくさは続く、すでに三月。室に思える家族の手紙。
白い頭に手をやれば、髪はさらに抜け落ちて、
冠止めのかんざしすらも、もはやさすこともないのだろうか。
(杜甫『春望』 伊藤康英私訳)

2. Il vecchio castello (古城)

つはものどもがゆめのあと

Chorus+Sax+Band

Promenade 3

この世に神がないのなら

Chorus+Sax+Pf

Will kein Gott auf Erden sein, sind wir selber Götter!

この世に神がないのなら、われらこそが神なのだ。

(ミュラー『冬の旅』より。伊藤康英訳)

3. Tuileries (テュイルリー／遊びのあとの子供たちの喧嘩)

こどもたちのけんか

Sax+Pf

4. Bydlo (ビドロ)

わたしたちの命は、小さな輪

Tutti

Denn mit Göttern
Soll sich nicht messen
Irgend ein Mensch.

Hebt er sich aufwärts
Und berührt
Mit dem Scheitel die Sterne,
Nirgends haften dann
Die unsichern Sohlen,
Und mit ihm spielen
Wolken und Winde.

Was unterscheidet
Götter von Menschen?
Dass viele Wellen
Vor jenen wandeln,
Ein ewiger Strom:
Uns hebt die Welle,
Werschlingt die Welle,
Und wir wersinken.

Ein kleiner Ring
Begrenzt unser Leben,
Und viele Geschlechter
Reihen sich dauernd
An ihres Daseins
Unendliche Kette.

神々と力を競うこと勿れ。
人もし昇りて、星々に頭を触れたその時は、
足おぼつかず雲と風とに弄ばれる。

神々と人とを分かつものは何。神々の御前にては、打ち寄せる波は、永遠の流れとなる。
人は波にのみ込まれ、沈みゆく。

わたしたちの命は、小さな輪。
あまたの世代が連なりあい、はてなき鎖に繋がれる。
(ゲーテ『人間性の限界(Grenzen der Menschheit)』より。伊藤康英訳)

Promenade 4

いにしへの唐の女の歌

Chorus+Band

長安一片月、
cháng ā n yí piàn yuè
萬戸擣衣聲。
wàn hù dǎo yī shē ng
秋風吹不盡、
qiū fē ng chuī bú jìn
總是玉關情。
zǒng shì yì guā n qíng
何日平胡虜、
hé rì píng hú lǚ
良人罷遠征。
liáng rén bà yuǎn zhē ng

(長安一片の月、萬戸衣を打つ声。秋風吹いて尽きず、総て是れ、玉関の情。何れの日か胡虜を平げ、良人遠征をやめん)

欠けた月が都を照らす。
あたりからは砧を打つ音。
秋風は西より吹きつづく。
とかくに思うは夫のこと。
いつ西の国を平定して、
いくさを終えて帰るのか知らん。
(李白『子夜呉歌』 伊藤康英私訳)

5. Ballet der nicht ausgeschlupften Kuchlein

(卵の殻をつけたひなどりのバレエ)
まだ殻がついているひなどりのバレエ
Pf+Band

6. Samuel Goldenberg und Schmuyle

(サミュエル・ゴールドンベルクとシュミュイレ)
金持ちと貧乏人
Tutti

auro pulsa fides, auro venalia iura, aurum lex sequitur, mox sine lege pudor.
廉直は金に追われ、正義は金で売られ、法は金に従い、やがて貞節も無法とならん。
(プロペルティウス『エレゲイア』第三卷 13.49. 柳沼重剛訳)

※冒頭部分のリズムはムソルグスキーの原曲に従った。特にアフタクト部分や第1小節第4拍のリズムは、ラヴェル編曲とは異なっている。

Promenade 5

人間よ、善良であれ。
Tutti

Der edle Mensch
Sei hilfreich und gut!
Unermüdet schaff er
Das Nützliche, Rechte,
Sei uns ein Vorbild
Jener geahneten Wesen!

けだかい人間よ。慈悲ぶかく 善良であれ。
有益なもの 正しいものを 倦むことなく つくれ。
あの 予感される存在の 生きうつしとなれ。
(ゲーテ『神性(Göttliche)』より。井上正蔵訳)

※このプロムナードの全曲をここで演奏するのは些か冗長のように思われる。そこで、Vi=de に従って短く切りつめることを提案する。

7.Limoges (リモージュ／市場(大ニュース))

市場の雑踏

Pf+Band

8.Catacombae (Sepulcrum romanum)

(カタコンブ(ローマの墓))

ローマの墓より

Chorus+Band

In bello parvis momentis magni casus intercederent.

戦争では、たびたび些細なことから重大な結果が生じるものだ。

(カエサル『内乱記』第一巻 21。国原吉之助訳)

Con mortuis in lingua mortua

(死者とともに死者のことばをもって)(Promenade 6)

死者のことばより

Chorus+Band

Omne bellum sumi facile, ceterum aegerrime desinere; incipere cuivis etiam ignavo licere, deponi, cum victores velint.

なべて戦争を起こすのは容易だ。が、やめるのは頗る困難だ。どんな臆病者にも始められるが、やめるのは、勝者がやめようと思う時だけだ。

(サルスティウス『ユグルタ戦記』83.1。伊藤康英訳)

Omnia vincit Amor et nos cedamus Amori.

愛はすべてを支配する。さればわれらも従おう、愛に。

(ウェルギリウス『牧歌』第十番 69。伊藤康英訳)

9.Die Hütte auf Hühnerfüßen (Baba-Jaga)

(鶏の足の上の小屋(バーバ=ヤガー))

鶏の足の上に小屋がたっている

Chorus+Pf+Band

10.Das Bogatyr-Tor (in der alten Hauptstadt Kiew)

(ボガティル門(古都キエフの大門))

よろこびによせて

Tutti

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!

Ja – wer auch nur Eine Seele
S e i n nennt auf dem Erdenrund!

Gram und Armut soll sich melden,
Mit den Frohen sich erfreuen.
Groll und Rache sei vergessen,
Unserm Todfeind sei verziehn,

Was den großen Ring bewohnt
Huldige der Simpathie!

Seid umschlungen Millionen!
Diesen Kuss der ganzen Welt!
Unser Schuldbuch sei vernichtet,
Ausgesöhnt die ganze Welt!

ほんとうの友をつくるという
偉業を遂げた者たちよ、
優しい伴侶を得た者たちよ、
共にあげようよこびの声。

心をかち合える人が
この地球上にたったひとりでもいる者たちよ。

悲しく貧しい人は誰？
よこびもて楽しもう。
怒りも復讐も忘れよう
不倶戴天の敵も許そう

大きな地球の輪に住むものは
敬意を払い共感しあう

抱き合おうよ、みんな。
この口づけを全世界に。
貸しも借りも水に流そう。
全世界は和解しよう。

(シラー『歓喜に寄す』より。伊藤康英訳)

Sekai wa hitotsu!
世界はひとつ！
(伊藤康英)